

SPECIAL

## 災害拠点病院としての取り組みについて ～災害訓練の様子～

災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度な診療機能や広域搬送への対応機能、医療救護班の派遣機能などを有し、災害時に必要な医療支援を行うための拠点施設です。第二次医療圏ごとに整備される「地域災害医療センター」と、さらにそれらの機能を強化し、災害医療に関して都道府県の中心的な役割を果たす「基幹災害医療センター」に分けられ、当院は「地域災害医療センター」として平成9年1月に北海道の指定を受けております。

災害拠点病院は、災害時診療における基幹病院としての役割を担っておりますが、当院では施設・整備面の確保の他、災害拠点病院の取り組みとして毎年災害訓練を行っています。今年は10月14日(月)に訓練を行いましたので、その訓練内容をご紹介します。

訓練は震度5弱の地震発生を想定したトリアージ訓練です。トリアージとは、限られた人員や資源を活用して最大多数に最善の医療を提供するために治療の優先順位をつけることです。

訓練開始後、正面玄関会計窓口前に暫定災害対策本部を設置、職員が参集して役割分担が決まります。

早速、傷病者の受入れが始まりました。



【トリアージの様子】

各診療ポストではチームミーティングを行い、診療の流れの確認、必要物品の配置、役割分担を行います。まもなくトリアージポストから傷病者が移動し、順次、診察・処置を施します。

傷病者には事前に設定した傷病に応じて血液検査やレントゲン検査を疑似的に行っています。



【経過を記録する暫定対策本部】

本訓練により、公的病院として、また地域の中核病院として当院が担う役割、使命を自覚すると共に、災害時診療に対する心構えを改めて認識することができました。今後も災害拠点病院として地域の医療機関を支援する病院を目指していきます。



【訓練開始後、暫定対策本部に参集】

正面玄関前の風除室にはトリアージポストが設置されます。来院した傷病者には、最初にこのポストでトリアージが実施されます。

ここでは原則治療は行わず、緊急度に応じて重症ポスト(赤:緊急治療群)、中等症ポスト(黄:非緊急治療群)、軽傷ポスト(緑:治療不要・軽処置群)に振り分けられ、各ポストに誘導されます。



【中等症ポスト】

診療ポストでの対応の間、暫定対策本部では傷病者リストの作成や空床状況の把握、発災からの時系列実施事項を記録するなど、本部機能を果たすべく情報収集を行います。

また、収集した情報を基に人員配置の指示を行うなど、積極的な情報の発信も行います。

